

第69号

連携室だより

財団法人 北海道医療団 帯広第一病院

発行 財団法人北海道医療団 帯広第一病院 地域医療連携室

〒080-0014 帯広市西4条南15丁目17番地3 URL:<http://www.zhi.or.jp> e-mail:renkei@zhi.or.jp

TEL 0120-558-091(連携室直通) 0155-25-3121(病院代表) FAX 0155-27-0248(連携室専用)



ドック専用お弁当の新メニューです

今号の内容

- ・手術室・中央材料室紹介・手術実績報告 / 看護部 手術室主任 遠藤実代 …… 2
- ・北海道病院学会発表～Cokon Direct System 再構築と今後の課題～
内視鏡センター師長 西原尚美
- 第2回十勝オンコロジー懇話会の報告 / 地域医療連携室主任 林栄一 …… 3
- ・高性能ポータブルエコー(S-Nerve)導入について / 麻酔科科長 佐々木英輝
ドック専用お弁当の新メニュー / 栄養科 管理栄養士 大塚三奈 …… 4

手術室・中央材料室紹介・手術実績報告



看護部 手術室主任 遠藤 実代

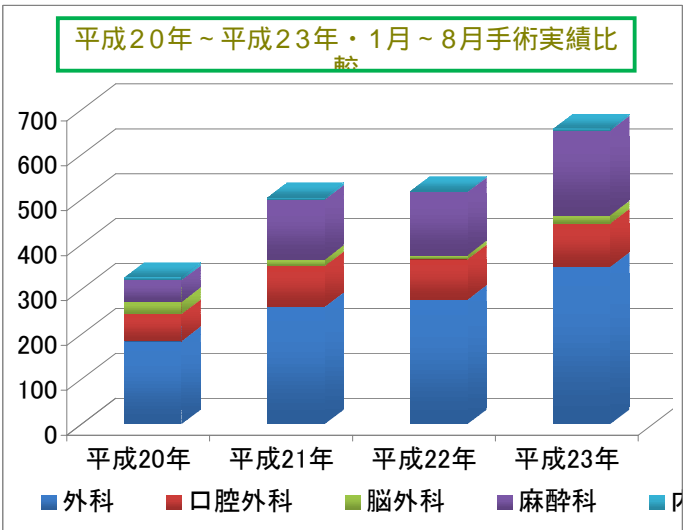
看護部手術室主任の遠藤実代と申します。
 以前、連携室だより第36号に手術室の紹介をさせて頂いた以降、年々増えている手術実績など近況をご報告いたします。
 下記グラフに示したように平成20年3月の整形外科常勤医師の退職に伴い、一時的に手術件数は減少しましたが、平成21年4月の内視鏡センター開設以降は外科を中心に年々増加しています。ことに平成23年に入ってから8月末まで前年の77%に匹敵する手術を行っています。

看護スタッフもこの9月より増員され、看護師10名体制になりました。手術件数は増え忙しい毎日ではありますが、予定手術全例に術前訪問を行い周手術期の継続看護に役立つよう、ひたむきに努力をしているところです。

今後も、DPC導入に伴い在院日数の短縮、患者様のニーズの多様化など様々なことに対応できるよう、病棟・外来との連携をさらに密にして医療サービスの質向上を目指していきたいと考えています。

中央材料室は院内の鋼製小物や器具類、洗濯物を取扱い、洗浄・消毒・滅菌を行っています。助手2名が専任しており、手術室看護師10名も兼務しています。今年7月に行った洗浄評価では概ね良い評価が出され、当院には最新の洗浄機などは備わっていませんが、スタッフみんなが患者様に提供する医療・看護に使用されるものが安全であるよう、誠実に業務にあたっていると自負しております。

今後とも手術室・中央材料室一同、他の医療スタッフとのチームワークを大切に対応させていただきますので、よろしくお願い致します。



増加する手術には、麻酔科の佐々木英輝医師を中心に、しばた腎泌尿器科クリニック副院長の柴田万里子医師、国立病院機構帯広病院より麻酔科医師（朝井裕一麻酔科医長をはじめ輪番制）の応援を頂き、安全で安心な手術を受けて頂けるような体制を整えています。また、設備面でも今年に入り、患者監視モニター・セントラルモニター・麻酔器の更新を行い、自動麻酔記録器・エアウェイスコープ・LED喉頭鏡・気管支鏡・経食道心エコーなど最新の機器を導入し、安全に患者管理を行っています。



手術室スタッフ一同

～ 北海道病院学会発表～



Colon Direct System再構築と今後の課題

内視鏡センター師長 西原 尚美



7月に開催された「北海道病院学会(演題164例)」に、当スタッフの今井看護師が「Colon Direct System再構築と今後の課題」と題して当院看護部初の学会発表し、「患者の利便性を考え、工夫された良いシステムである」と評価を受けてきました。発表を期に、待ち時間短縮、説明用紙の改定等、利便性を重視したシステムに改善しました。

学会に参加し、当センターは内視鏡指導医・専門医・専門技師が充実しており、より安全で高水準な内視鏡検査が提供できていると再認識できました。CDSによってスムーズに大腸内視鏡検査を受けていただく事で、連携しながら患者様の健康管理に貢献できるものと考えています。患者様、地域から求められる内視鏡センターとなるよう努力していきたいと思います。



第2回 十勝オンコロジー懇話会の報告



去る8月5日、第2回十勝オンコロジー懇話会が北海道ホテルを会場に開催され、管内の先生方及びコメディカルの参加がありました。

今回は当院の関連医局でもある、東北大学大学院医学系研究科消化器分野・海野倫明教授が「転移性大腸癌治療の新しい展開」と題して特別講演され、当院外科の阿部友哉科長が座長を務めました。

特別講演では、化学療法をはじめとした最新治療、

また海野教授のもと設立された宮城肝胆膵化学療法研究会の紹介、他施設共同の臨床試験等に関する報告があり、参加された管内の先生方からも活発な質問がありました。

また、講演の冒頭では、東日本大震災に関する被害状況、医療支援活動についての報告がありました。震災直後の医局内や各科の医療支援についての協力の様子など、実際の写真も織り交ぜながら説明がなされ、震災の甚大さを改めて感じるものでありました。また病院そのものが被害に遭い、復興できていない所に勤める医師が、手術のスキルを落とさないよう、交代で関連病院へ出向しているという状況も報告されました。緊急時の協力体制、人と人との絆、医局としての絆というものを強く感じるものでした。

地域医療連携室主任 林 栄一

高性能ポータブルエコー（S - N e r v e）導入について

麻酔科科長 佐々木 英輝

この度、神経ブロック、中心静脈穿刺時に使用するポータブルエコーを導入致しました。従来の据置型装置では、本体の大きさから思うような位置に移動出来ない場合や電源を入れてからの立ち上がり時間に時間を要するなど不便な点がありましたが、装置本体が小型かつ起動にも15秒と短時間であることから、取り扱い易くなっております。



小型でありながらも、神経ブロック、血管穿刺に特化したエコーであり、15MHzの高周波リニアプローブや8MHzマイクロコンベックスプローブと組み合わせ、頸部神経根ブロック、星状神経節ブロック、腕神経叢ブロック、眼窩下神経ブロック、三叉神経節ブロックなど正確に安全に施行可能です。

また、Advanced Needle Visualization搭載であり、本来エコービーム上にない針の写らない角度でも高画質に針先が鮮明に映し出され、より安全かつ迅速な神経ブロックの施行ができます。麻酔科ペインクリニック外来に据置いたしますので、従来のようにエコーを取りに行く時間、患者様をお待たせしなくてもよくなりました。

～ドック専用お弁当の新メニュー～

煮物・焼き物・サラダなどを中心に、油分を抑え、検査後の身体に優しい献立になっております。朝食・昼食を兼ねたお食事で、ご飯、汁物、牛乳を含め966Kcalです。多様な食材を盛り込み、栄養バランス良く仕上げております。肉料理は、鶏肉にほどよい酸味のねぎたれをかけ、さっぱりした味わいです。魚料理は、お刺身（10月～3月）、赤魚の塩焼き（4月～9月）と季節により提供内容が変わります。また、ご飯には十六穀米を使用しておりますので、普段不足しがちな鉄分や食物繊維も補えます。今回は果物と合わせ、ケーキもご用意いたしました。彩り良く、目でも楽しんで頂けるお弁当です。

栄養科 管理栄養士 大塚 三奈

地域医療連携室 より

今月の表紙は、ドック新弁当の写真です。今回果物と合わせて、ケーキもついた弁当です！特にデザート好きな女性には嬉しいメニューだと思います。

夏も終わり、段々と涼しくなりましたね。今年もあと4ヶ月を切りました。体調を崩さず過ごしていきたいと思います。

(小野 遥)



【地域医療連携室】

連携室直通電話 0120-558-091

連携室専用FAX 0155-27-0248

連携室専用e-mail renkei@zhi.or.jp

【担当スタッフ】

下川原 一彦 (MSW係長)

林 栄一 (MSW主任)

大熊 三紀子 (事務員)

小野 遥 (事務員)